

なぜ、バンテアイ・クディ遺跡を調査・研究するか

石澤良昭

調査団は 1989 年からアンコール・トム主城東側に位置するバンテアイ・クディ遺跡を選び、そこにおいて調査・研究を実施している。ここを選んだ主な理由は次の通りである。

(1) アンコール遺跡の保存修復をどのように進めるかの方法論を確立し、保存修復に関する技術開発を発展させるため科学的データを収集し、総合的学際的調査研究が可能な遺跡である。

(2) バンテアイ・クディは中規模遺構で 12 世期末か 13 世紀の最盛期に建立された。この地域は歴史的に前身遺構がとりざたされるほど、プレ・ループ遺跡 (961 年) も近くにあり、10 世紀ごろからのアンコール王朝の中心地であった。約 400 年にわたる歴史展開が蓄積されており、そのため、調査研究成果が期待される。

(3) この遺跡には近接してタ・プローム遺跡 (寺院の原初形態と変遷の調査および植物繁茂調査最適地) およびスラ・スラン貯水池 (水利網調査に重要) があり、広分野の学際的調査研究を行う上で最も重要な場所に位置している。

(4) クディ遺跡は塔門・中央高塔・回廊・テラス・環濠・小池などが建築構造・配置構成されている典型的なアンコール遺跡であり、調査研究事項が豊富である。

(5) 建築用材として砂岩・紅土を中心に構築されており、不同沈下箇所や崩壊部分が残存し、他の遺跡との比較調査・研究が可能であり、適度に構造的破壊・損傷が実証できる。

(6) 遺跡へアプローチする場合、広い平地があり、機器の搬出入および小型自動車を使用する際の足場がよい。交通の便 (宿泊所から) もよく、近くに作業員を確保する村落があり、長期間の調査・研究、そしてカンボジアの専門家や学生の研修の場として地の利を得ている。

(7) フランス極東学院が1954年で保存修復活動を中止しており(約40年前)、その後の経過調査の必要性がある。これは遺跡の保存修復を遂行していく上で重要なデータを収集できるし、そのハードな方法論の確立に向けての道を拓くものである。また、典型的な遺構と密林と村落が近接して存続しており、これまでフランス極東学院時代に調査研究が十分でなかった地質学・植物学・生態学・水文学・文化環境調査などが可能である。(石澤良昭)